

■ 国際コミュニケーション学部 英語学科

教育研究上の目的
学則第1条（目的） 本大学は、教育基本法及び学校教育法並びに本学の設立趣意書に基づき、高い教養と専門的職能教育を施し、広く国際的視野をもって人類社会の発展に貢献しうる人材を養成することを目的とする。
学則第2条の2（学部及び学科） 高度な英語運用能力と言語文化に対する深い理解を基礎に、異文化に関心をもち、言語学、ビジネス、英語教育といった分野に関する体系的な学びを通じて、国際社会において世界の人々と対等に渡り合えるコミュニケーション能力をもつ人材の養成を目指す。
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
国際コミュニケーション学部英語学科では、学則第2条の2に示す人材の養成を目指します。この目標に沿って、所定の単位を修得し、以下の資質、能力及び知識を身につけた学生に「学士（外国語）」の学位を授与します。
（知識・技能） 1. レポート・研究ノートを英語で執筆することができる。 2. 学術的な報告と質疑応答を英語で行うことができる。 3. 英語の文献を正確に理解し、資料として利用することができる。 4. 学術・教育・ビジネスにおいて、実践的に英語を運用することができる。 5. 言語のみならず文化や歴史など広い視野に基づく教養と専門知識を身につけている。
（思考力・判断力・表現力） 1. 自らの社会・文化を国際的な観点から客観視する複眼的な思考ができる。 2. 自ら課題を発見・解決し、成果を卒業研究に結実させることができる。 3. 英語・日本語を中心に複数言語で、高いプレゼンテーション能力を発揮することができる。
（主体性・多様性・協働性） 1. 様々な国や地域の人々、また多様な社会・文化背景を持つ人々と積極的にコミュニケーションをとることができる。 2. 地域内でも国外でもお互いを尊重し理解を深め合える柔軟性を身につけている。
教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
国際コミュニケーション学部英語学科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、全学部共通で示す教育課程の編成・実施方針に加え、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。
（教育内容） 1. 学問への導入・動機づけを目的とする「入門ゼミ」を配置する。 2. 幅広く深い教養と総合的な判断力、そして豊かな人間性と倫理を涵養するために「共通教養科目」を配置する。 3. 多文化状況を生き抜くための語学力を養うため、必修科目として第1外国語科目（英語）、及び第2外国語科目を配置する。 4. 専門教育の初歩として、1年次には外国語学習の基礎及び文化的背景を理解し、国際的なコミュニケーション能力を身につけるための視野を広げる「基幹科目」を配置する。 5. 英語に関する専門的言語能力を身につけるために、1次から4年次まで段階的に英語展開科目を配置する。 6. 学生自身の興味に合わせて、2年次から「Language Studies」「Business」「Education」の専門コースのうちのいずれか一つを選択し、それぞれのコースの英語展開科目から指定の単位（8単位）を選択必修する。さらに、幅広く英語の専門的知識と技能を修得するために、他コースの選択必修科目も履修できる。 7. 3年次からは、より深く言語を理解し、関連するテーマについて研究を行うために、「演習科目」を配置する。 8. 4年次において、卒業論文を執筆する。
（教育方法） 1. 学生の主体的学修を支援できるよう、アクティブ・ラーニング等の教授手法を積極的に取り入れる。 2. 少人数教育を演習、実習等で実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。 3. 交換留学や認定留学、国内外での課外活動・フィールドワークを奨励する。 4. 英語教育を促進するため、海外ゼミ研修や短期語学研修の促進、外部の英語テストの受験など、英語で行われる専門科目以外にも、様々な支援を実施する。
（学修成果の評価） 国際コミュニケーション学部英語学科では、本学における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。 1. 教育課程（メソ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、GPA分布（年度毎、通算）、留年率、卒業論文の成果評価割合等により行う。

愛知大学 3つのポリシー（2026年度以降）

2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布、授業評価アンケートにより行う。
入学者受入方針（アドミSSION・ポリシー）
国際コミュニケーション学部英語学科では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を養成するために、以下のような資質、能力及び知識を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。
1. 求める学生像 (1) 英語をはじめとする外国語を習得したい人。 (2) 異文化理解に関心を持ち、異文化体験を通して視野を広げたい人。 (3) 国際的な場での社会貢献をしたい人。 (4) 企業の海外事業や国際流通部門、航空・旅行会社など、海外の人と関わる職業で活躍したい人。 (5) 英語教師となり地域社会や教育の分野で自らの学びを還元したい人。
2. 入学前までに修得すべき能力 （知識・技能） (1) 英語学科での教育を受けるのに必要とされる高校卒業程度教育課程を修得している。 (2) 高校卒業程度の英語力を有し、日常生活に必要な英語を理解し、使用できる。
（思考力・判断力・表現力） (1) 物事を論理的に考え、自分の意見をわかりやすく説明しようと努力できる。 (2) 自ら課題を発見・解決するための基礎学力を身につけている。
（主体性・多様性・協働性） (1) 主体的に学ぶ姿勢を身につける意欲がある。 (2) 多様な社会的・文化的背景を持つ人々に関心を持つことができる。
3. 選抜方法 (1) 一般選抜 基礎学力をバランス良く備えた入学者を選抜するために、複数科目を課し、その結果を総合判定して合格者を決定する。 (2) 総合型選抜 出願資格に応じた入試区分を設け、出願書類、小論文、面接、学科試験等により総合判定して合格者を決定する。 (3) 学校推薦型選抜 調査票（全体の学習成績の状況）、資格点、面接、学科試験により総合判定して合格者を決定する。